

B—10 仮縫い時における必要動作に関する一考察

お茶の水女子大 柳沢 澄子
○三鬼 明子

1. 衣服は、身体の動作をさまたげるものであってはならないと思う。私共は衣服を製作する際、仮縫いという過程を経るが、この場合の必要動作について身体の計測的研究を行なってみた。

2. 日常の動的姿勢のうち、椅坐位、坐位、立位における基本姿勢を選び、各姿勢における頸付根囲・胸囲・胴囲・腰囲・両腿囲・腕付根囲・上腕最大囲・肘囲・背肩幅・背幅・胸幅・背丈・下肢後丈・下肢前丈・脇丈・肘丈・袖丈などの身体各部の寸法的变化を観察した。これらの身体部位が最大増加を示す姿勢を選んで、仮縫い時の必要動作としてみた。被検者は若い婦人 20 名である。

3. 動作による体表の寸法的变化に基いて考察した場合の仮縫い時における必要動作は、つぎのようである。ブラウスや上衣類については、まず胸をひろげた姿勢によって胸幅、胸をすぼめて背肩幅、上肢を前方から上挙して背幅及び上衣丈を検討する。スカートについては、椅子に腰掛けて上体を前屈し、胴囲・腰囲・スカート前丈の適否を観察するとよい。